

千畳敷

千畳敷は白浜にある隆起した海岸段丘です。文字通りの意味は「千枚の畳の敷物」で、この名称は幅広い平らな砂岩や泥岩の層を表し、畳が広大な場所に敷かれている様な効果を与えています。

千畳敷は 1500 万年以上前は浅い海底の一部でしたが、その時から 100 年に約 5cm ずつ隆起してきました。千畳敷の最も内陸側は 12 万年前には水中にあったとされており、海虫が這った跡が化石化した物や波紋が岩に刻まれている様子が見られます。構造プレートがゆっくりとこれらの岩盤を海上へ押し上げ、波が表面を侵食して滑らかにし、凸凹とした斜面を形成しました。千畳敷は黄色の砂岩と茶色の泥岩の層が見える貴重な一例で、地質を学ぶのに重要な場所となっています。

千畳敷の隣には洞窟があり、ここではコビナガコウモリが繁殖しています。この洞窟は同地域で唯一の繁殖地であり、3 万匹以上のコウモリが生息しています。